

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

1 社会資本の概要

過疎と高齢化が進む日本有数の豪雪地。十日町市・津南町の越後妻有（えちごつまり）地域で2000年以来、3年に1度開催される現代アートの国際芸術展「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を核とする地域づくりを行っています。

若年層の流出とともに、空家や空き店舗の増加、

耕作放棄地の拡大といった地域の課題に対し、現代アートを媒介に越後妻有の潜在的魅力を再発見し、自然や文化、ここで暮らす住民の営み全てを一つの美術館として再構成して発信する取り組みは、アートによる地域づくりの先進事例として国内外から注目を集めています。



作品「Kiss&Goodbye」は老若男女を問わず人気



大倉スノーシェッドを舞台に地元の人も出演

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「大地の芸術祭」が生まれた当時、アートを中心とする地域活性化を目指すことに、住民や6市町村議会のほとんどが反対でした。過疎や高齢化が進むこの地域では、現代アートそのものに馴染みがなく、批判が噴出しました。第1回展は開催予定を一年遅らせ、住民への説明会や各種会議などが合計2,000回以上行われました。

当初は作品制作に協力する住民は数えるほどしか

いませんでしたが、自分の孫のようなボランティアサポーター「こへび隊」が献身的に作品制作や作品説明をする様子を見ているうちに協力する住民が次第に増えてきました。住民と協働で制作される芸術作品、作品説明や来訪者へのおもてなし、さらにはパフォーマンスへの参加など、住民との関わりこそがこの芸術祭の最大の特徴であり、来訪者にとっても大きな魅力となっています。



ボランティアサポーター「こへび隊」と地元サポーター



地元のお母さんのおもてなしと地元食材による農家レストラン



新潟県十日町市・津南町

大地の芸術祭実行委員会 / 十日町市・津南町・新潟県十日町地域振興局

3 活動の成果や波及効果等

2000年の第1回から回を重ねるごとに来場者は増え続け、2015年に行われた第6回展では地域住民数の7倍を超える約51万人が芸術祭を楽しむためにこの地を訪れました。芸術祭開催年以外にも既存の作品を活用し、住民参加による企画展やワークショップなどを開催して「大地の芸術祭の里」のブランドづくりを行っています。



通年の取り組み「大地の芸術祭の里」

4 前回受賞時からの活動の発展内容

2010年度に手づくり郷土賞を受賞後、2012年開催の第5回での来場者数は約49万人、2015年開催の第6回では約51万人となり、越後妻有を訪れる人々は増え続けてます。参加集落も92集落（第5回）から110集落（第6回）に増加、サポーターも37名から152名と増加し、芸術祭を通じて地域を支えるネットワークも広がっています。

喜びの声



受賞者

大地の芸術祭実行委員会
事務局長 金澤 克夫

コメント

大賞を受賞をできうれしく思っております。大勢の方々のご支援の賜物と感謝しております、ありがとうございます。3年に一度の開催年はもちろんですが、「地域全体が美術館」のコンセプトのもと、いつでも楽しんでいただける取り組みを進めています。

2016年度は季節ごとの企画展・イベントを開催しています。8月6日～21日・10月の毎週土日・3月に楽しい企画をご用意していますので、皆様もぜひ遊びにいらしてください。

活動内容

大地の芸術祭 事務局運営 など

活動の経緯

2000年 大地の芸術祭 初開催
2003年、2006年、2009年
2012年 2015年 と開催
(次回展は2018年の予定)

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

新潟県十日町市及び津南町

活動主体及び連絡先

大地の芸術祭実行委員会
(事務局：十日町市産業観光部観光交流課)
(025-757-2637)

対象となる社会資本

越後妻有里山現代美術館[キナーレ]ほか圏域内芸術祭作品
トヤ沢砂防堰堤 ※管理者：十日町市、新潟県

